



特定行為研修修了者の活動支援

—急性期病院の特定行為研修修了者かつ看護管理者の立ち場から—

滋賀医科大学医学部附属病院

特定看護師活動支援室

看護師長 吉田 和寛

発表に先立ちまして...

発表内容に特定行為研修修了者を「特定看護師」と記載している箇所がございます。

滋賀医科大学では、看護師特定行為研修の修了者を、「特定看護師」と呼称しています。

ご理解ください。

滋賀医科大学医学部附属病院 概要

病院理念

信頼と満足を追求する『全人的医療』



看護部理念

あたたかい心で、患者さんに満足していただける看護を提供します。

特定機能病院（滋賀県唯一の大学病院）

看護職員：661人

病床数：612床

リソースナース

診療科：31診療科

専門看護師：4分野 6名

平均在院日数：13.7日

認定看護師：12分野 27名

病床稼働率：89.0%

特定看護師：11名（うち1名診療科雇用）

<http://www.shiga-med.ac.jp/hospital/doc/index.html>



当院の特定看護師

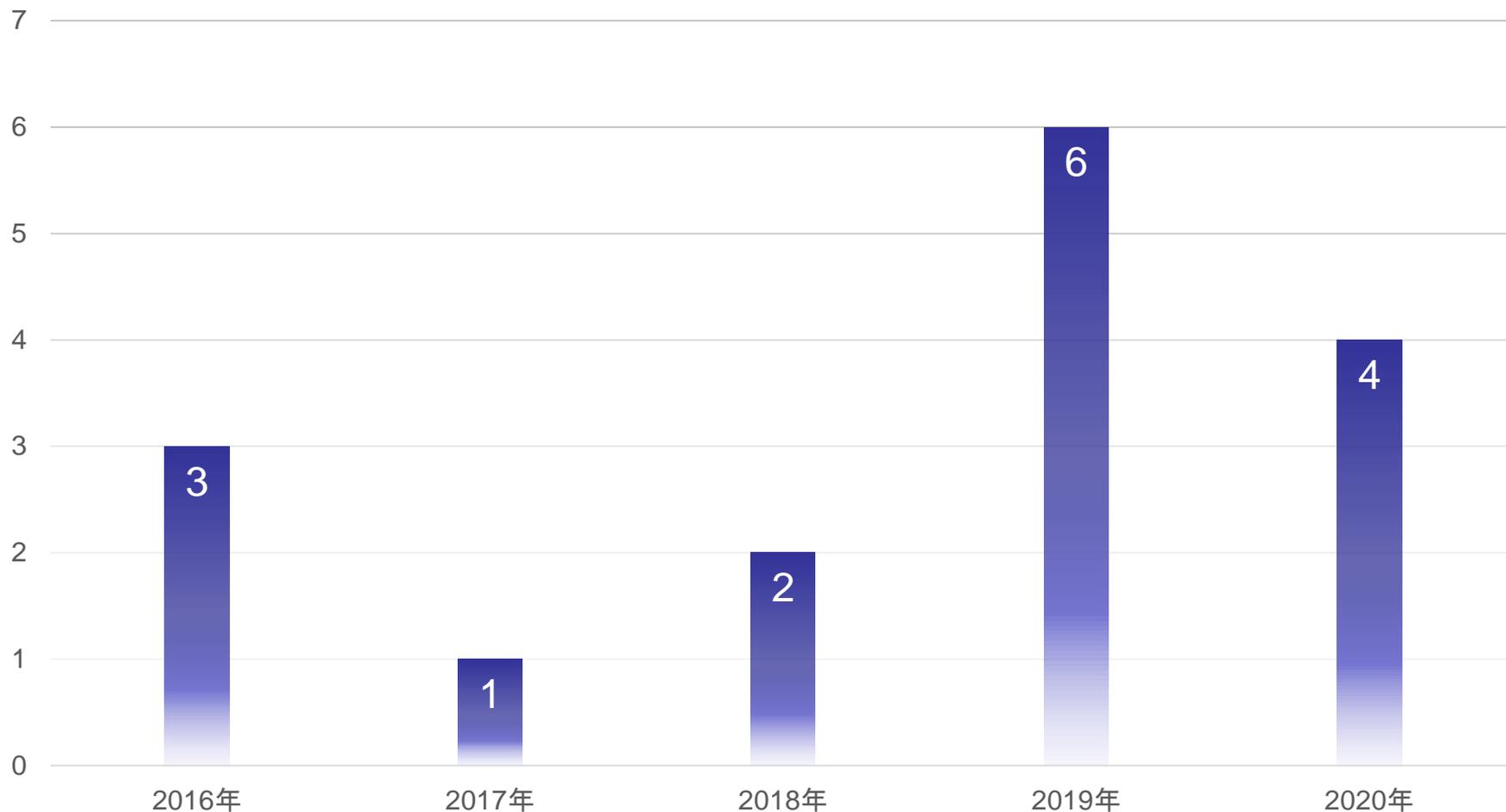
滋賀医科大学医学部附属病院の
特定行為研修修了者(特定看護師)に
ついてお知らせしています。

～お知らせ内容～

- 特定看護師の役割について
- 患者さんに特定行為が実施されるまでの流れ
- 特定看護師の活動領域
- 特定行為研修の受講状況 など



当院の特定看護師 研修受講年度 内訳



看護管理者としてすべきこと

- ◆ 組織のリーダーが、自らの組織のミッションを考え、明確化することから始まる！
- ◆ リーダーが「こうありたい」という姿・組織が目指すイメージをわかりやすく組織の人間に伝える！



組織のメンバーにとって、価値基準が明確化されるため、ビジョンに向かうことができ、ミッションの実現につながる

特定行為研修修了者の活用と育成は？

施設における特定行為研修修了者の使命は？

特定行為研修修了者に求める人材像

1. 患者を全人的な視点でとらえることができる
2. 患者の個別性に配慮した優れた看護を実践する
3. 多職種と円滑な情報共有・交換をする
4. 患者の意向を多面的にとらえ、最善の選択に向けた支援をする
5. 看護の専門職として看護サービスの質の維持・向上に貢献できる
知識・技術・態度の習得及び活用をする
6. 自己啓発の必要性を認識し、行動化する

組織的視野で活動計画をもち、自律した行動がとれる看護師

「何をさせてもらえるか？」ではなく、

「何ができるか?」、「これができる!」といった強い意思が大切! ⁷

特定行為研修修了者の育成ビジョン

滋賀医科大学医学部附属病院看護部では…

大学病院の高度な医療提供に 대응するとともに、医療・ケアと生活が一体化した体制強化をめざすため、地域と施設間の連携に対するリーダーシップへの期待や、組織内における医療者間のタスクフティング・タスクシェアリングの拡大に寄与できる特定看護師を積極的に育成する

特定看護師活動支援室として…

急性期、慢性期問わず、病院内・外のあらゆる場において
オールラウンドに特定行為を活かして活躍できる人材を育成する

支援の方針

【活動支援の方針】

特定看護師活動支援室マネジャーは看護部長と相談し、特定看護師のキャリアパスに基づいて活動者のキャリア開発を助言および支援する

【人事配置の方針】

- ・ 看護部長は特定看護師活動支援室マネジャーを1名任命する
- ・ 看護部長は、特定看護師 I・II の配属を命令する
- ・ トレーニングや活動フィールドは、組織全体を見据え、フィールド拡大を優先とする

* 特定行為研修生および特定行為研修修了者個々のキャリア支援に関する考慮はするが、必ずしも個人の希望が優先されとは限らない

特定看護師のキャリアパス

看護部

創造期

マネジャー

看護管理者・教育者

- ・クリニカルラダーⅣ以上
- ・養成に対するコーディネーター(特定看護師の采配)・労務管理
- ・特定看護師の教育支援
- ・キャリアマネジメント
- ・特定行為研修講師 ・特定看護師の活動実績管理 など

提供期

特定看護師Ⅱ
(リーダーシップ)

特定行為自律的活動者・教育者(部署横断活動可)

- ・クリニカルラダーⅣ以上
- ・マネジャーの指示により活動
(特定行為については自律)
- ・特定行為研修講師

修練期

特定看護師Ⅰ
(メンバーシップ)

特定行為・活動スキル向上者

- ・クリニカルラダーⅢ以上
- ・マネジャーの指示により活動
- ・基本的には部署・診療科内活動

特定看護師活動支援室



看護部

指示・命令・支援

報告・相談・提案

特定看護師活動支援室
マネジャー

リーダー

(特定看護師Ⅱ)

配置部署内活動
or 部署横断型活動

メンバー

(特定看護師Ⅰ)

配置部署内活動

急性期管理領域

リーダー

(特定看護師Ⅱ)

配置部署内活動
or 部署横断型活動

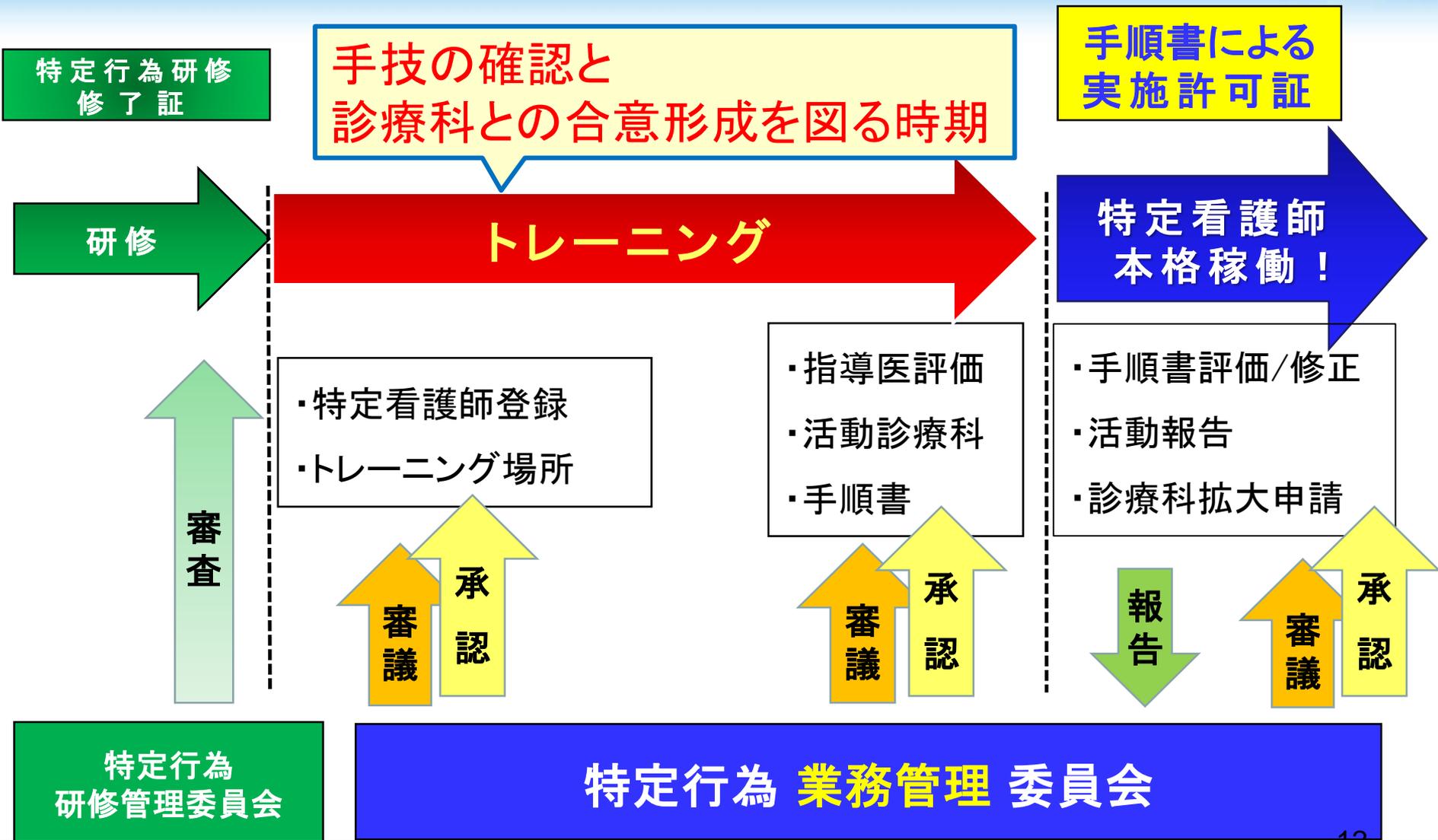
メンバー

(特定看護師Ⅰ)

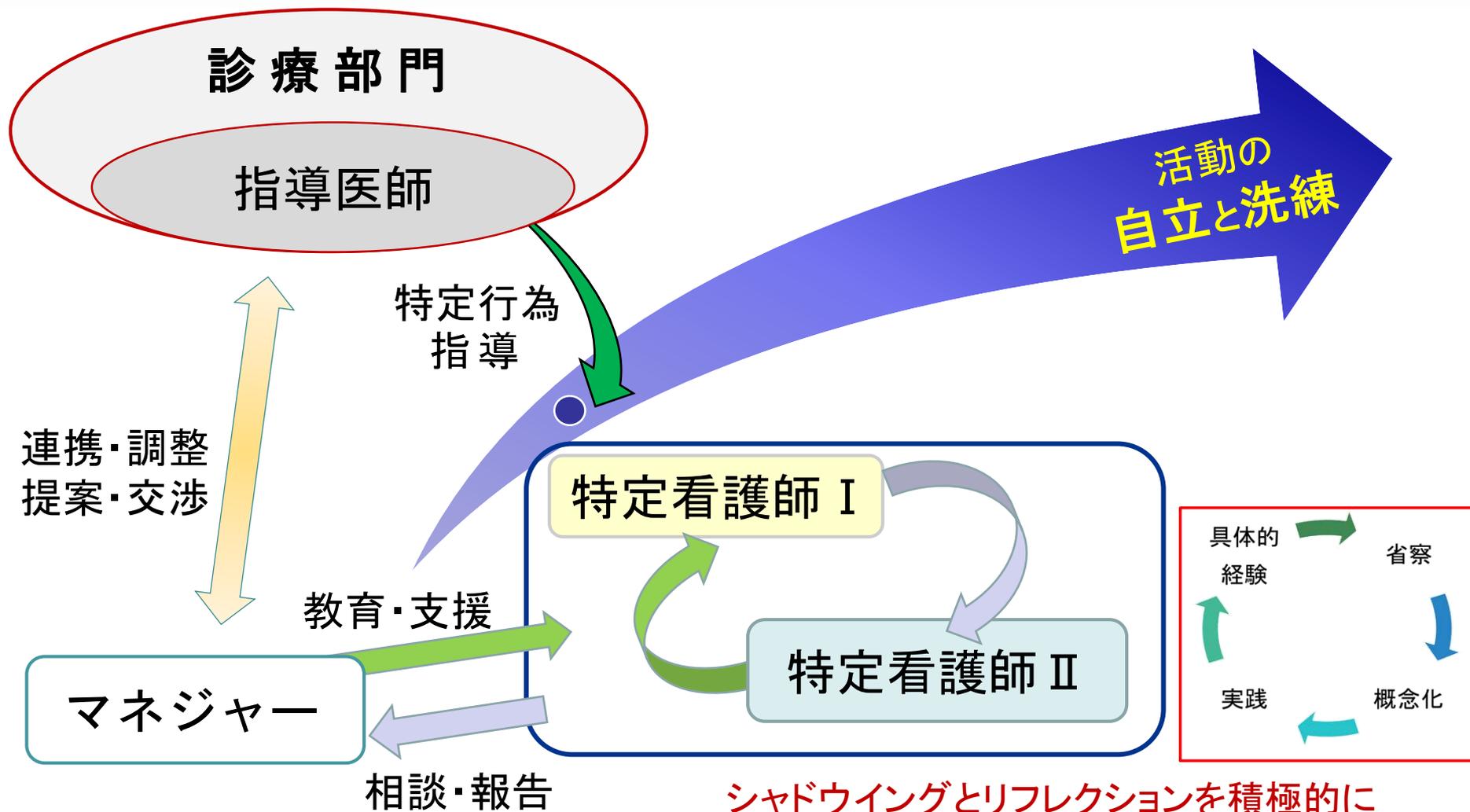
配置部署内活動

慢性期管理領域

特定行為研修修了後のフロー

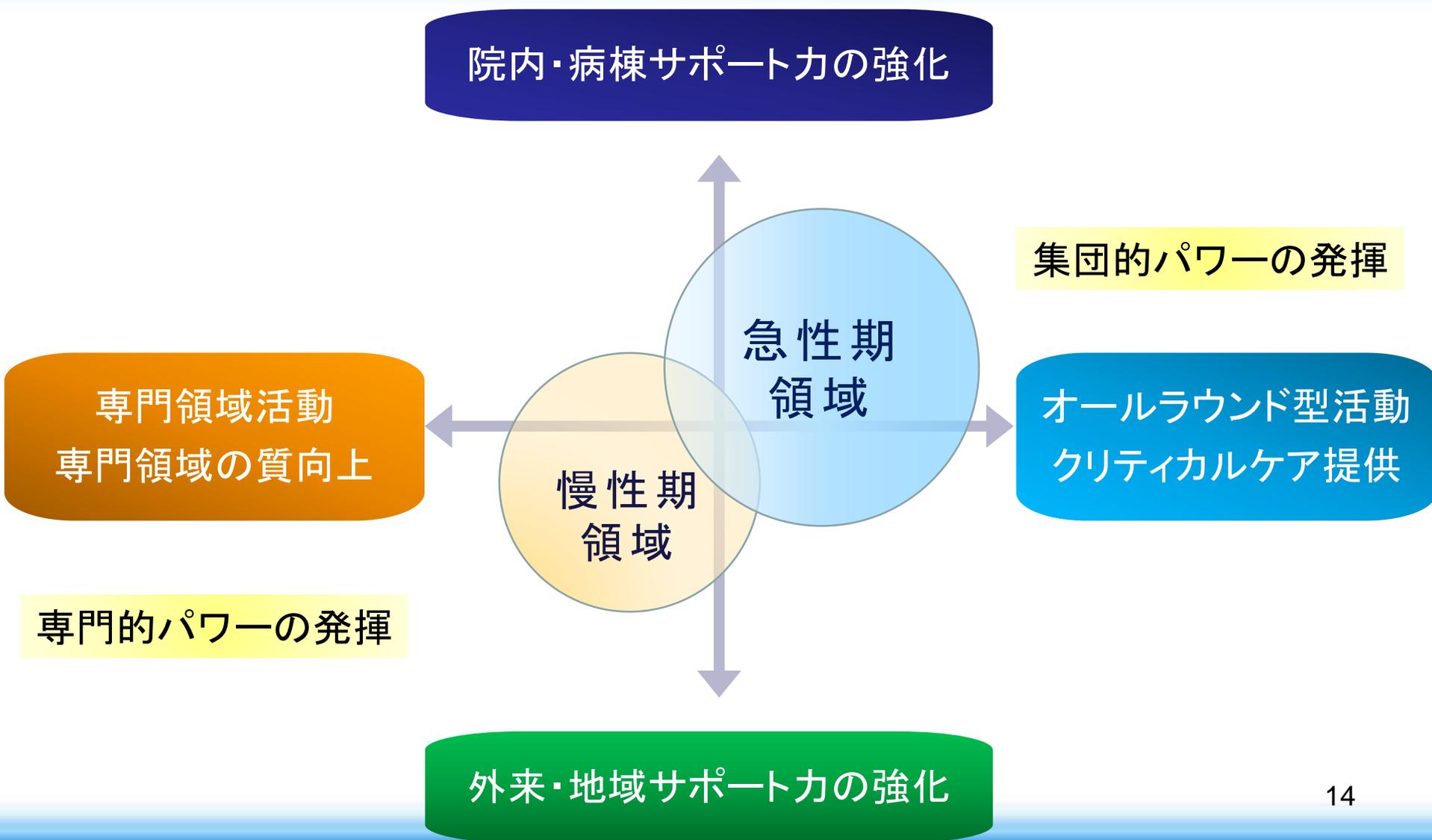


特定看護師の活動自立への支援



シャドウイングとリフレクションを積極的に

活用の構想と方向性



研修修了者として、看護管理者として

- ・ 特定行為**研修受講前のフォローアップ**
- ・ 看護部と各部門(診療科含む)との**連携調整**
- ・ 診療科・部署における**活動構築と支援**
- ・ 活動領域の拡大(**調整・交渉**など)
- ・ **実践者の業務支援と管理**(特定行為に関して)
- ・ 特定行為に関する**アウトカム管理**
- ・ 院内規程、マニュアルなどの**構築・整備**
- ・ 特定行為研修センターとの**連携**

アサーティブに
Win-Win
落とし所の見極めと決断

etc...

研修修了者の機能を発揮させるために

- ・ 「特定行為研修制度への使命」の共通認識
- ・ 特定行為研修修了者の活用ビジョンの明確化
- ・ ビジョンを実現化するための具体的戦略を可視化
- ・ 研修制度についての組織の理解と推進の姿勢
- ・ 医療安全体制のバランス
- ・ 特定行為実践に対する評価への働きかけ（インセンティブなど）
- ・ 特定行為実践の場・環境調整（実践者任せにならない支援）
- ・ 特定行為研修に関わる仲間（チーム）作りと教育支援

特定行為研修の学びを活かした活動

患者に安心・安全の療養環境を



問題

Rapid Response System (RRS) : 現場の医療者からのcallで発動

RRSの発動条件の7割以上が見過ごされているとの先行研究あり



令和元年7月から運用開始

特定看護師による急変ハイリスク患者ラウンド

「待ち」の姿勢ではなく「攻め」の姿勢で

- 患者に身近な存在である看護師が、患者の急変の早期認識と早期介入ができる
- 患者の急変、重篤化の予防につなげる

特定看護師としてのOJTの場でも・・・

臨床推論力・臨床判断力・調整力・交渉力の向上が期待

特定看護師に対する現場からの声



医師 → 医師でなければ難しいと思っていた業務も任せられ、時には特定看護師の方が良い場合もある

【IC・麻酔】患者の理解度に不安があったが、事後フォローしてもらい安心であった

【術前・麻酔】我々が患者のところに行けない時にも、適切に情報を得てきてくれるので、麻酔計画が適切に修正できる

【呼吸管理・整形】非侵襲的陽圧換気のマスクフィットをうまくしてもらえて、治療設定が大きく変わり、挿管なくて済んだ

【ケア・救急】呼吸だけでなく皮膚のケアやリハビリのことまで気を配ってもらえるので、管理がしやすくなった

【呼吸管理・救急】患者の反応をしっかり見て管理してもらえるので有り難い

【呼吸管理・小児】前回、導入時のケアなどを丁寧に行ってもらえたので、今回もお願いしたい。

患者・家族 → より患者に寄り添った、レベルの高いトータルケアが実現

【IC】ひとつずつ分かりやすい言葉で話せてもらえてよくわかりました

【術後】手術後も毎日来てもらえて安心。もっと特定看護師さんが増えてほしい

【呼吸管理】最初、マスクのフィッティングが全くうまくいかなかったが、うまく直してもらった。患者の安楽さが全然違う

看護師 → 他の看護師に良い影響が波及し、全体のレベルアップも予感される

【術前】術前情報を適切に担当看護師に伝えてくれるので、患者が安心できるよう声掛けを変えられることができた

【術後】手術後のベッド移送時のモニタリングや病室に帰ってからの管理にも関わってもらえて勉強になります

特定行為は看護です

看護師が実践することの**本質**を見極め、**価値あるもの**にしなければならない

- ・ 「患者にとって、対象者にとって」の視点が大切
- ・ 主語は「医療者」ではありません
- ・ 「看護サービス、医療サービスを受ける人」が主語になるように

看護の独自の機能を発揮して・・・

診療の補助

特定行為

「診療の補助」は、看護師が「患者にとって」の意味を考え、
診療を受ける患者を支援するもの

→ 患者さんの何を支援するのか？

患者側に立った視点が明確にあって初めて「看護」になる

道(未知)を切り開いていくなかで、大切にしていること

魅(み)せることも
大切です

- “看護師としてすべきこと”を丁寧にする
- “看護師として当たり前のこと”を“当たり前”にする
- “看護師だからこそできること”にこだわる
- “看護師としての責任”を全うする姿勢を示す
- “個よりもチームを意識”した行動をとる
- Win-Winの関係構築を目指す

特定行為研修修了者活用に向けた 看護管理者の課題



病院の使命・方針の周知

- ・ 強化したい特定行為の活用領域について動機づけ
- ・ 特定行為研修受講者拡大

活動支援の強化

- ・ 看護師長に対しての働きかけ（情報発信、活用イメージの伝達）
- ・ 特定行為研修修了者の役割と活動を可視化

さらなる活用推進

- ・ 病院組織（幹部、医療安全部門、医師、医療情報等）への働きかけ
- ・ 活動に向けた助言や所属看護師長に対しての理解
- ・ 特定行為研修修了者が活動しやすい環境づくり
- ・ 特定行為研修制度を活かした事業企画と展開

キャリアサポート

- ・ 特定行為研修修了者の適所配置
- ・ インセンティブの検討とアプローチ

特定行為研修で学び 看護の独自の機能を発揮させるために

研修修了者は「**特定行為を実施するだけの看護師**」ではない

そして、決して特別な者でもない

みなさんの組織は、どのような使命をお持ちでしょうか？

研修修了者にどのような役割・活動を期待しますか？

私たちは、患者さんにどうなっていただきたいのか？

成し遂げたい“**共通のミッション**”に一丸となって
取り組むことが大切です

特定行為研修で学び、私たちと“**こだわりの看護**”を楽しみませんか？₂₂

ご清聴、ありがとうございました



創造

1. Creation

優れた医療人の育成と
新しい医学・看護学
医療の創造

挑戦

2. Challenge

優れた研究による
人類社会・現代文明の
課題解決への挑戦

貢献

3. Contribution

医学・看護学・医療を
通じた社会貢献

Creation
Challenge
Contribution